

【2018年度事業計画】

ネットワークを力に！～協同組織のおモイとチカラを形にしていきます～

一般社団法人くらしサポート・ウィズとして行う事業の2年目となります。「一般社団法人」に法人格を変更したことで、これまで以上にわたしたちの事業を多くの方に利用していただけるようになりました。2018年度はさらに新たな可能性を模索し、実現に向けて前進します。これまで生協で培ってきたスキルやネットワークは私たちの大切な財産です。社会が抱える課題の解決に向けて、少しでも役立つように活動をしていきます。

しごとが決まらない息子の将来が心配、離婚したい、親の面倒を見るのがつらい・・・、昨年度は1,000件を超える相談を受けました。抱えている問題や背景にある状況は様々です。人が生きている以上、様々な困難や、問題にぶつかるものですが、複雑に絡み合った糸のように、すんなりとはほどけない、解決しない問題が増えてきています。また、相談自体は人が生きている時代を色濃く反映します。インターネットが発達し自分の正体を明らかにしない、なかなか本音を表さない時代となってきました。相談機関としては、何気ない相談の裏側にある事象をしっかり読み取り、発信していく力が今まで以上に要求されると感じています。協同組織のおモイとチカラを基軸に、常に進化していく、社会に役立つ組織として事業を進めます。

事業別方針

1. ぐらしの相談事業

子育て、しごと、貧困・格差、高齢者・介護など、私たちが相談の中で問題と感じる課題に対して、国や地方行政、民間でもさまざまな政策がすすんでいます。しかし日々のぐらしの中で感じる「ため息の出るような悩み」が減っているようには思えません。ともすれば自然災害や事故等で想定外の状況が加わり問題を複雑化させます。

他人にとってはどうしてもよい相談者の小さな悩み、その裏側に何が潜んでいるのか常に感度よくキャッチし、相談者にとっては悩みが小さいうちに解決できるようにし、相談機関としては「社会で今何がおこっているのか」情報発信をしていきます。「ぐらしの相談ダイヤル」は生活総合相談機関として自らのあり方を研磨しながら、相談者が一歩でも前進できるように、背中を押すきっかけ作りにも取り組んでいきます。

2. ぐらし向上のための情報提供事業

相談からみえる様々な社会の問題、それらの課題解決に向けて調査研究や情報提供を先進的に進めます。

多くの組織、団体で社会問題の解決に向けて取り組みが進んでいます。扱う問題や活動の対象は違ってても、問題の本質は通底しており、一つの団体ではできないことも、他団体とのネットワークを活かせば問題の解決にむけた活動が実現可能になります。

「理解」、「共感」が問題解決の第一歩という視点で、情報提供を進めます。また、相談現場で得た情報や必要な課題抽出は、委託元である生協へ情報提供と課題提起をしていきます。

3. 協同の理念の浸透と人材育成事業

協同組織の働き方や理念を次世代に伝える「インターンシップin協同組合」は5年目の取り組みになります。学生は「協同の発見」を通して人生を豊かにすること、協同組織側は学びの場を提供することで「協同の価値の再確認」につなげること、そして「協同」を担う人材育成の連携ができることを目指しま

す。

また、インターンシップのノウハウを生かし、体験学習の必要性を重要視している大学とアクティブラーニングやサービスマーケティングプログラムを進め、社会貢献へ高い志をもった人材育成にも着手します。

4. 暮らしの改善・文化の向上を図る事業

子ども、若者、女性が心豊かに、幸せに暮らし社会にしていくために、社会を担う側の人材育成と並行して、社会的に自立が難しい若者や女性への課題解決の取り組みを進めます。

若者や女性の相談先として入り口をさらに広げ、お金のこと、仕事のこと、暮らしのことなどの問題を、各分野で専門的に支援している団体と連携して取り組みます。ネットワークを広めて信頼できる支援先をさらに増やすことで、必要な支援につなげるパイプを太くしていきます。

5. 組織運営・管理体制の強化

(1) 経営・組織管理

- ①非営利型の一般社団法人として運営、実務管理の健全な運営を図ります。
- ②特定個人情報、個人情報などの取り扱いは、規定に則った管理と職員教育を徹底します。
- ③新規事業への取り組みを関連団体と共にすすめ、業務の受託準備や公益法人化について模索していきます。
- ④法人の財政基盤の安定化を目指し、事業受託の拡大や自主事業の調査研究をすすめます。
併せて、連携団体への賛助会員加入や寄付の呼びかけすすめ、また HP を通して一般の方への働きかけもしていきます。

(2) 職員体制

- ①効率の良い相談員シフトを組み、1日2回線・2名体制に整えます。
- ②役割分担を明確にし、事務局・相談員間で協力し合い運営していきます。
- ③非常勤スタッフによるシフト制のため、組織内での情報共有・伝達にネットワークアプリを利用し、業務を効率化します。
- ④組織内の意思疎通やミッション共有のための場づくりとして全体研修を行います。
- ⑤職員の常勤化に向けた体制を整えていきます。

(3) 団体・協同組合間とのネットワーク強化

これまでのネットワークを活かし、一歩進めた支援のあり方を模索します。

また、生協や NPO 団体、行政や教育機関との結びつきを強化して非営利・協同の連携をすすめる地域・社会の結節点の役割を担います。

(4) 広報と実績報告

- ①毎月発行していたニュースレターをメールマガジン形式にし、当法人の事業や企画を多くの方に知ってもらう機会を増やします。
- ②ホームページは SNS(インスタグラム・フェイスブックなど他団体サイトとのリンク等)を有効利用し、女性や若者も相談しやすいようにさらに充実を図ります。